

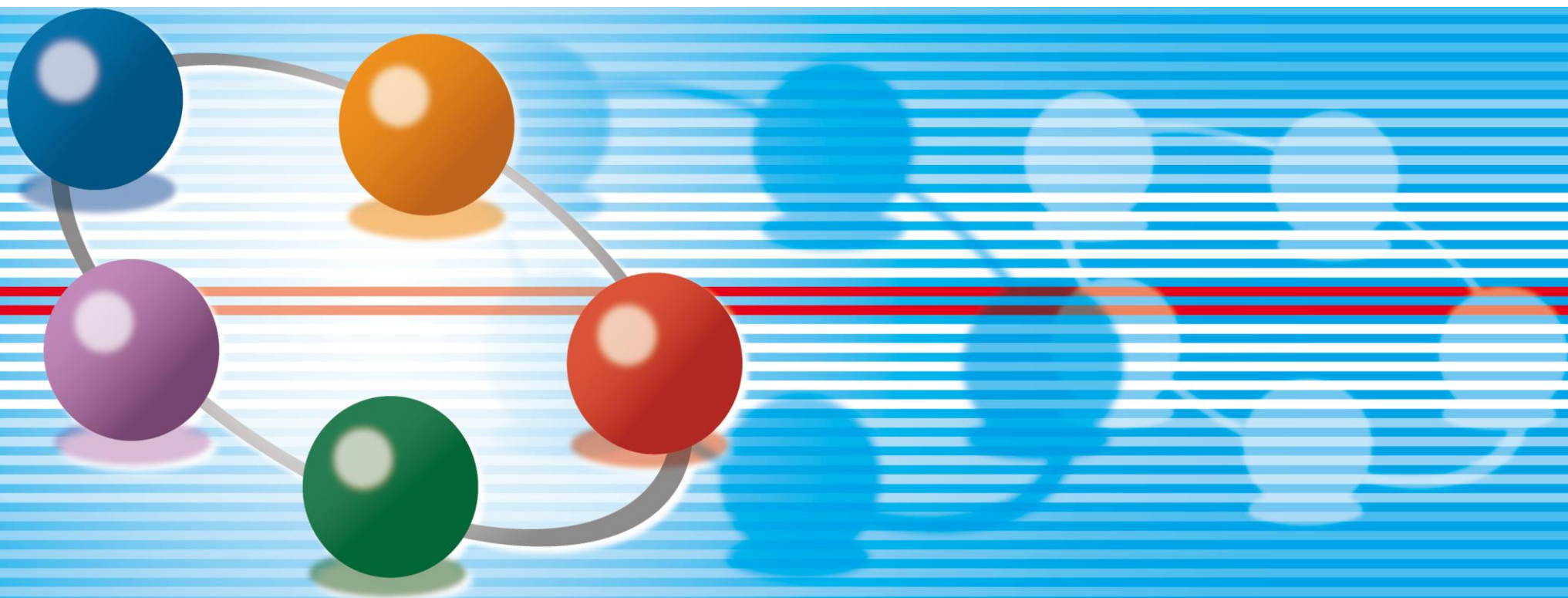


株式会社カワタ

2018年3月期第2四半期決算説明会資料

2017年11月17日

(証券コード 6292 東証第2部)

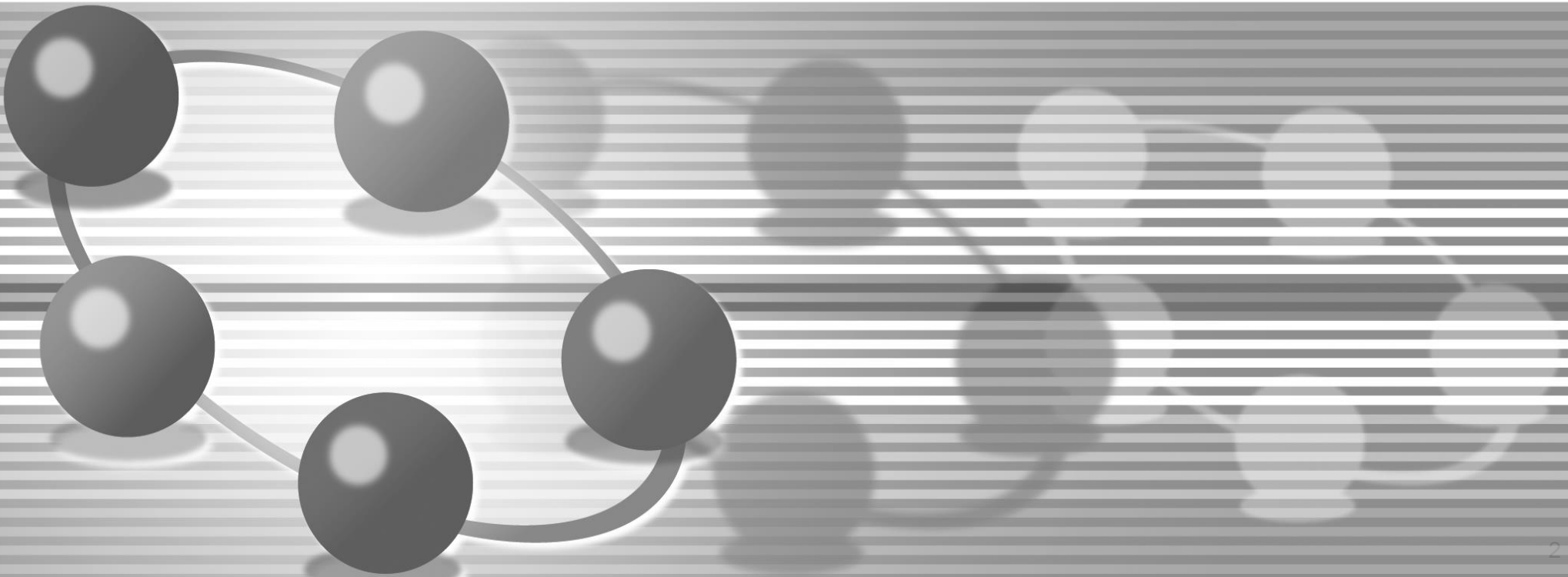


目次

- I . 会社概要
- II . 決算実績・業績予想
- III . 経営戦略
- Appendix



I . 会社概要



1. 会社概要

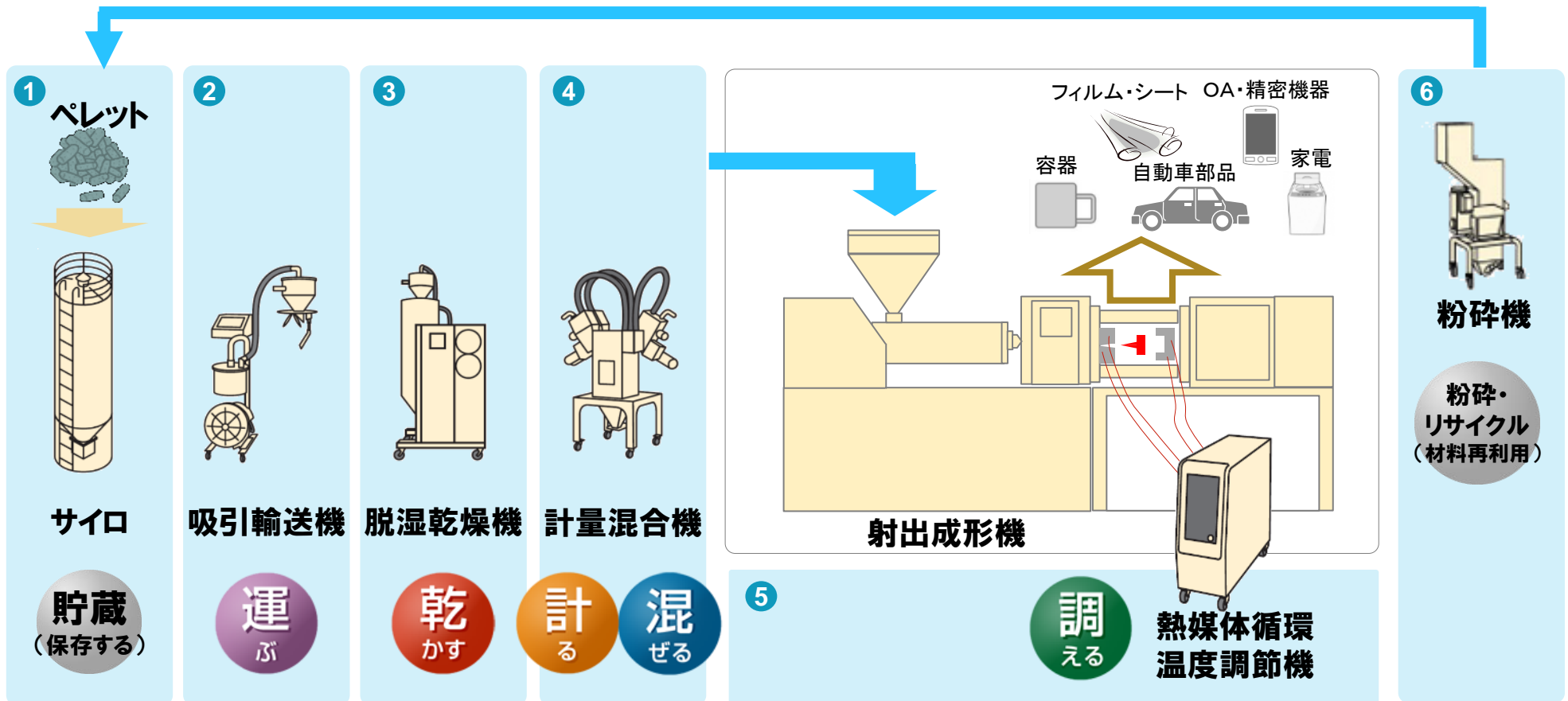
会社名	株式会社 カワタ	Kawata MFG. Co.,Ltd.
本社	大阪市西区阿波座1丁目15番15号(第一協業ビル)	
創業	1935年9月10日	
設立	1951年7月13日	
事業内容	プラスチック成形機周辺装置等のプラスチック製造機器の製造、販売及びこれに関連するシステムエンジニアリングその他のサービス	
代表者	白井 英徳	
売上高	16,654百万円(2017年3月期、連結)	
経常利益	445百万円(")	
(親会社)当期純利益	211百万円(")	
資本金	977百万円(2017年3月末現在)	
従業員数	782名(2017年3月期、連結)	
子会社数	16社(国内4社、海外12社) (2017年3月末現在)	



三田(さんだ)工場(兵庫県)

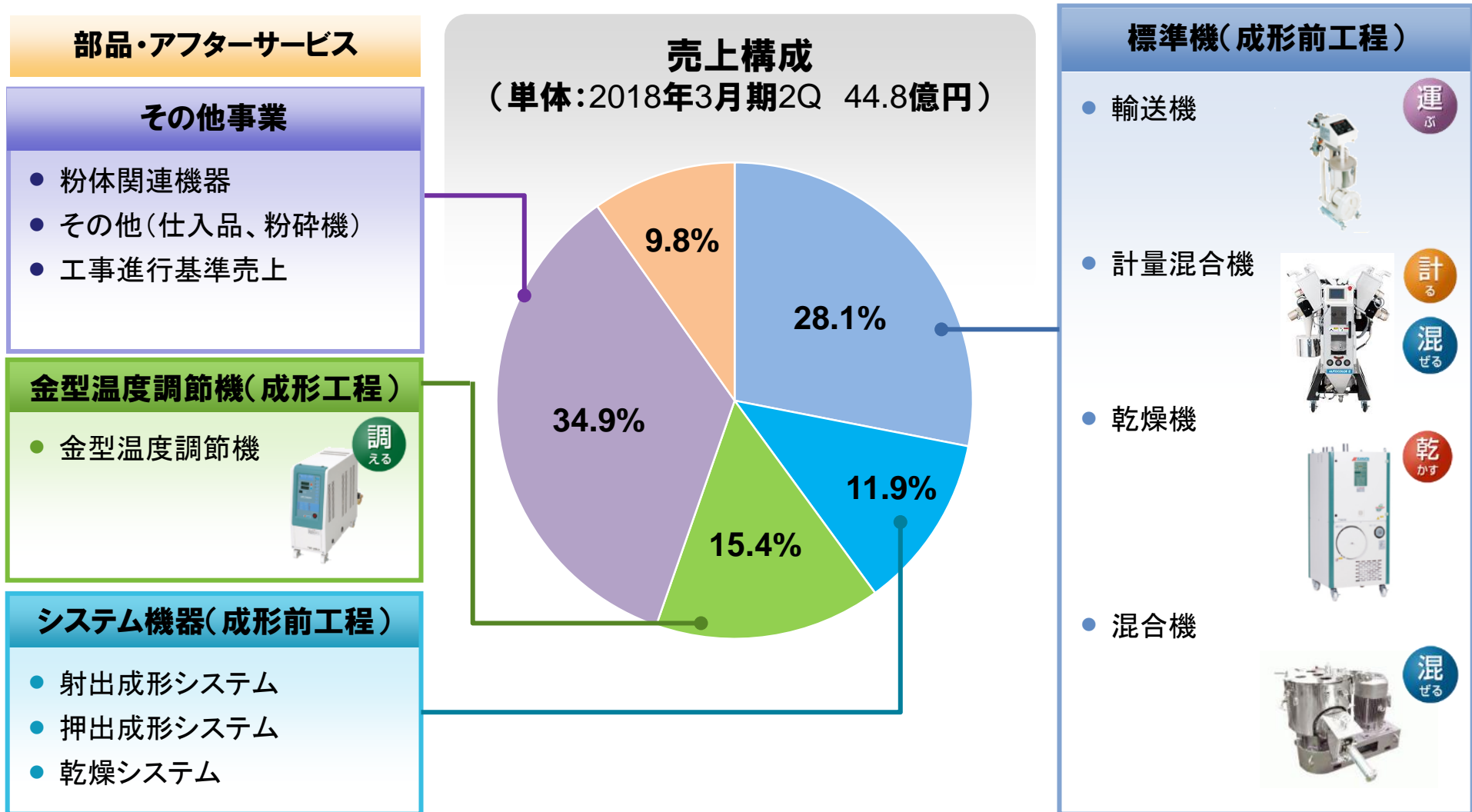
2. 事業内容:プラスチックを主とする製品製造工程の概要

- 事業内容:プラスチック成形機周辺装置等のプラスチック製造機器の製造、販売及びこれに関連するシステムエンジニアリングその他のサービス
- 5つのコア技術(運ぶ・乾かす・計る・混ぜる・調える)をもとにプラスチック製品製造における成形加工工程(主に原料供給工程)をシステムにて提供



3. 事業構成(単体)

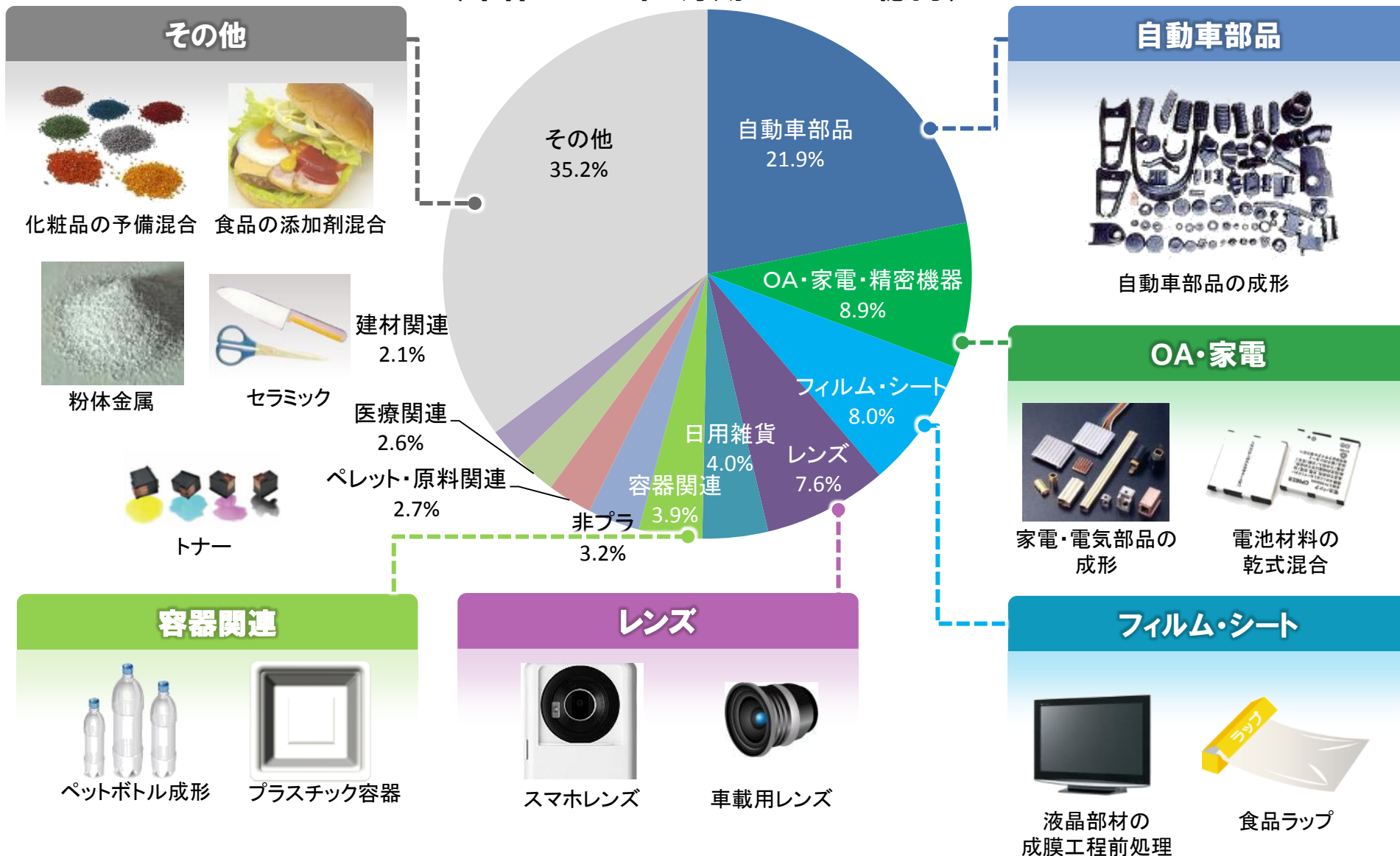
- プラスチック成形合理化機器関連事業、輸送・計量・乾燥・混合がコア技術
- コア技術を有機的に組合せた独自のハンドリングによるシステム装置が主力



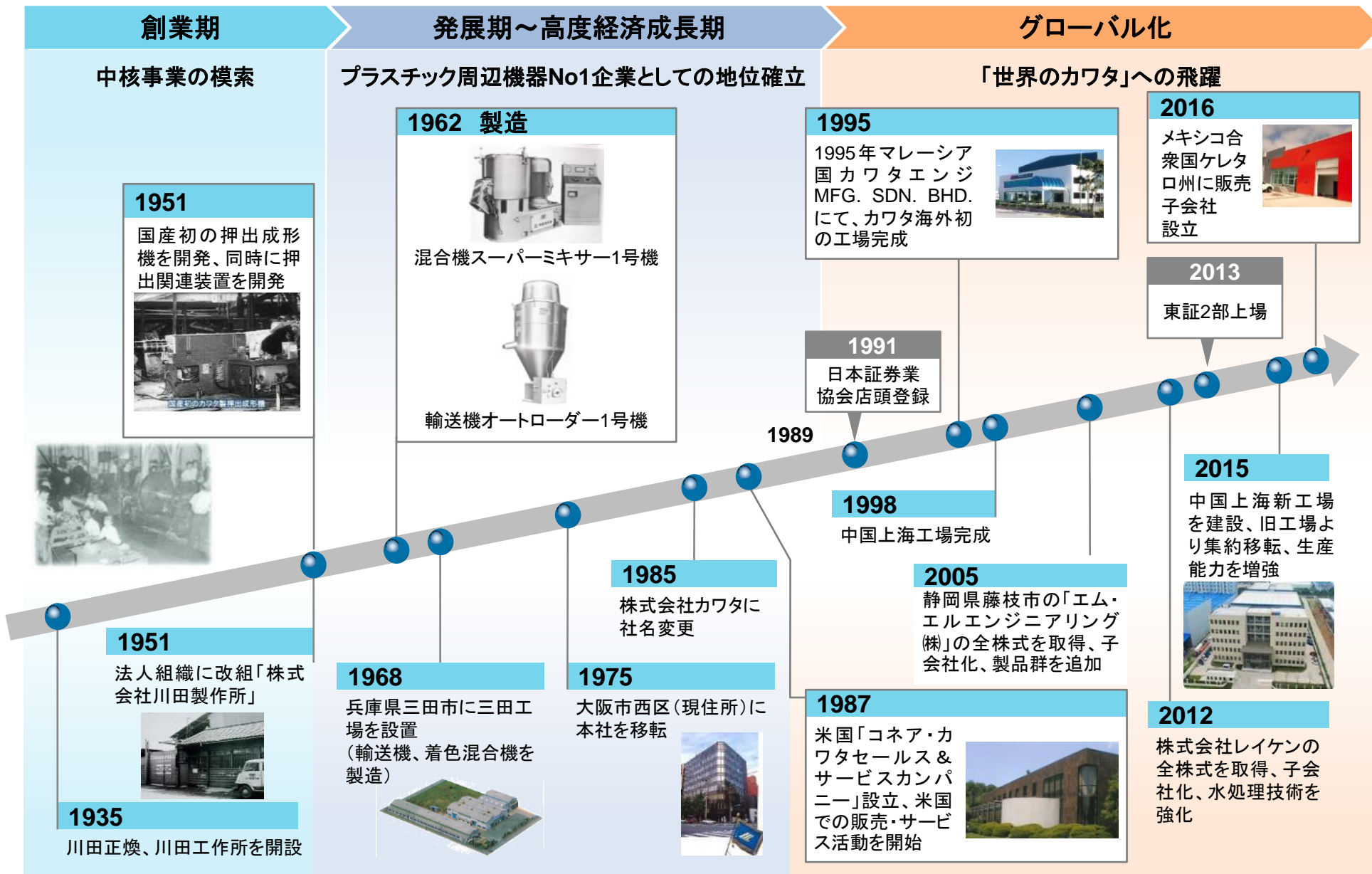
4.主な販売業界

販売先別売上構成

(単体:2018年3月期2Q 44.8億円)



5.会社沿革



6.カワタグループ概要

- 国内外に16社の子会社



金型温度調節機器、水関連機器



株式会社レイケン



株式会社サーモテック

水関連機器

株式会社カンゲン

プラスチック製品製造機器の製造、
販売・サービス

エム・エルエンジニアリング株式会社



プラスチック製品製造機器



川田機械製造(上海) 有限公司

川田機械香港有限公司

金型温度調節機器、水関連機器

冷研(上海) 貿易有限公司



プラスチック製品製造機器

川田國際股份有限公司(台湾)



カワタパシフィックPTE. LTD. (シンガポール)
プラスチック製品製造機器の販売及びサービス業務



カワタタイランドCO., LTD.
プラスチック製品製造機器の販売及びサービス業務
レイケンタイランドCO., LTD.
水関連機器の製造及び販売



カワタマーケティングSDN.BHD. (マレーシア)
プラスチック製品製造機器の販売及びサービス業務



PT.カワタインドネシア
プラスチック製品製造機器の製造及び販売
PT.カワタマーケティングインドネシア
プラスチック製品製造機器の販売及びサービス業務



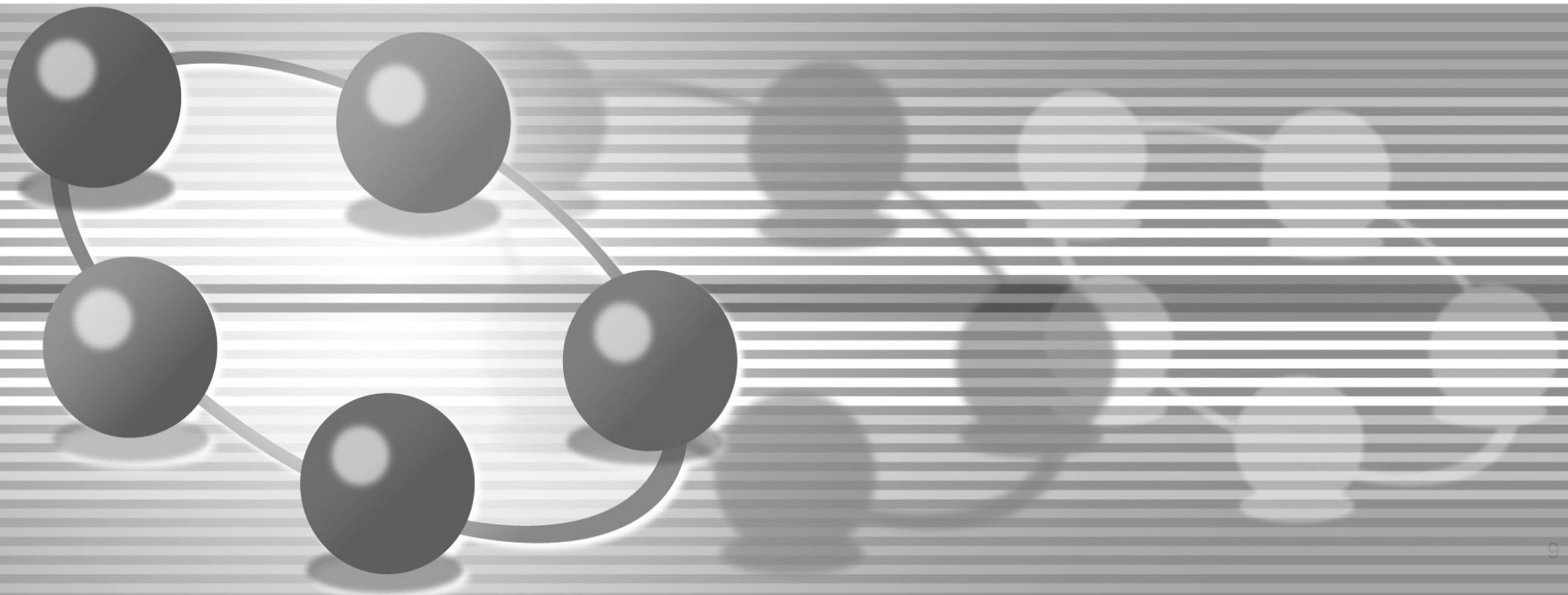
カワタU.S.A. INC.



カワタマシナリーメキシコ S.A. DE C.V.



Ⅱ. 決算実績・業績予想



1.決算概要総括

市場環境

国内

- 一部で足踏みが見られるものの生産や設備投資は緩やかに回復。企業収益や業況判断も改善の動き

海外

- 先進国は緩やかな回復傾向ながらも、米国の自国第一主義や英国のEU離脱問題等による下振れ懸念あり
- 新興国の経済成長は、従来の拡大テンポが緩やかに。また、紛争やテロ等の地政学的リスクが継続

売上面

連結売上高
9.011百万円
(前年比+14.3%)

国内

- 前年度に受注した海外向けの大型案件が寄与。国内の製造業の設備投資も回復基調

海外

- 中国において自動車関連、電子部品関連の設備投資意欲が回復。台湾の電子部品関連は一服感
- フィリピン、ベトナムは好調を維持。インドネシア、タイは、総じて緩やかな回復傾向

利益面(費用面)

- 売上高増加に伴う売上総利益の増加等により、営業利益、経常利益、(親会社)当期純利益ともに増益を達成

営業利益
409百万円
(前年比+34.5%)

- 売上総利益率は横ばい(29.6→29.2%)ながら、売上高の増加に伴い売上総利益が前年同期比299百万円増加
- 売上高増加に伴う運賃・梱包費の増加および主に海外における人件費の増加等により、販売費および一般管理費は前年同期比194百万円増加

(親会社)当期純利益
213百万円
(前年比+74.5%)

- 法人税、住民税及び事業税209百万円を計上

2. 2018年3月期第2四半期決算実績

①損益計算書(P/L)(連結)

(単位:百万円、%)

	実績						コメント
	2017年3月期第2四半期			2018年3月期第2四半期			
	金額	構成比	前期比増減率	金額	構成比	前期比増減率	
売上高	7,883	100.0	▲13.3	9,011	100.0	14.3	<ul style="list-style-type: none"> 日本、東アジアにおける自動車、電子部品関連が堅調 東南アジアも総じて回復傾向
売上総利益	2,331	29.6	▲21.5	2,631	29.2	12.9	<ul style="list-style-type: none"> 売上高増加に伴い売上総利益増加
販売費及び一般管理費	2,027	25.7	▲14.3	2,221	24.7	9.6	<ul style="list-style-type: none"> 売上高増加に伴う運賃、梱包費の増加 海外における人件費の増加
営業利益	304	3.9	▲49.5	409	4.5	34.5	
経常利益	206	2.6	▲65.7	379	4.2	83.9	<ul style="list-style-type: none"> 為替差損が前年同期55発生
(親会社)当期純利益	122	1.6	▲85.2	213	2.4	74.5	
減価償却費	130	-	44.1	144	-	10.7	
設備投資額	159	-	▲86.4	158	-	▲0.5	

2. 2018年3月期第2四半期決算実績

②セグメント別売上高・営業利益(連結)

(単位:百万円、%)

(売上高)

	実績						コメント
	2017年3月期第2四半期			2018年3月期第2四半期			
	金額	構成比	前期比増減率	金額	構成比	前期比増減率	
日本	5,661	67.0	0.6	5,962	61.2	5.3	<ul style="list-style-type: none"> 国内製造業の設備投資は回復傾向 海外向けの大型案件が寄与
東アジア	1,840	21.8	▲42.4	2,642	27.1	43.6	<ul style="list-style-type: none"> 中国における自動車、電子部品関連の需要が堅調
東南アジア	745	8.8	▲36.3	938	9.6	25.9	<ul style="list-style-type: none"> フィリピン、ベトナムの需要は好調 タイ、インドネシアも穏やかに回復
北中米	207	2.5	35.3	192	2.0	▲7.5	<ul style="list-style-type: none"> メキシコの販売会社の本格稼働は2017年後半より

(営業利益)

	実績						コメント
	2017年3月期第2四半期			2018年3月期第2四半期			
	金額	構成比	前期比増減率	金額	構成比	前期比増減率	
日本	455	167.0	1.6	386	100.5	▲15.1	<ul style="list-style-type: none"> 単体における販売構成比の変化(標準機比率が減少) 国内における据付、配管工事費用の増加
東アジア	▲141	▲51.9	-	68	17.9	-	<ul style="list-style-type: none"> 売上高増加に伴う売上総利益の増加
東南アジア	▲44	▲16.1	-	▲43	▲11.3	-	<ul style="list-style-type: none"> 競争激化に伴う売上総利益率の低下 人件費等諸経費の増加
北中米	3	1.1	731.4	▲27	▲7.1	-	<ul style="list-style-type: none"> メキシコ販売会社の設立関連費用等

(注)構成比は連結調整額を除いて算出

2. 2018年3月期第2四半期決算実績

③受注実績(連結)

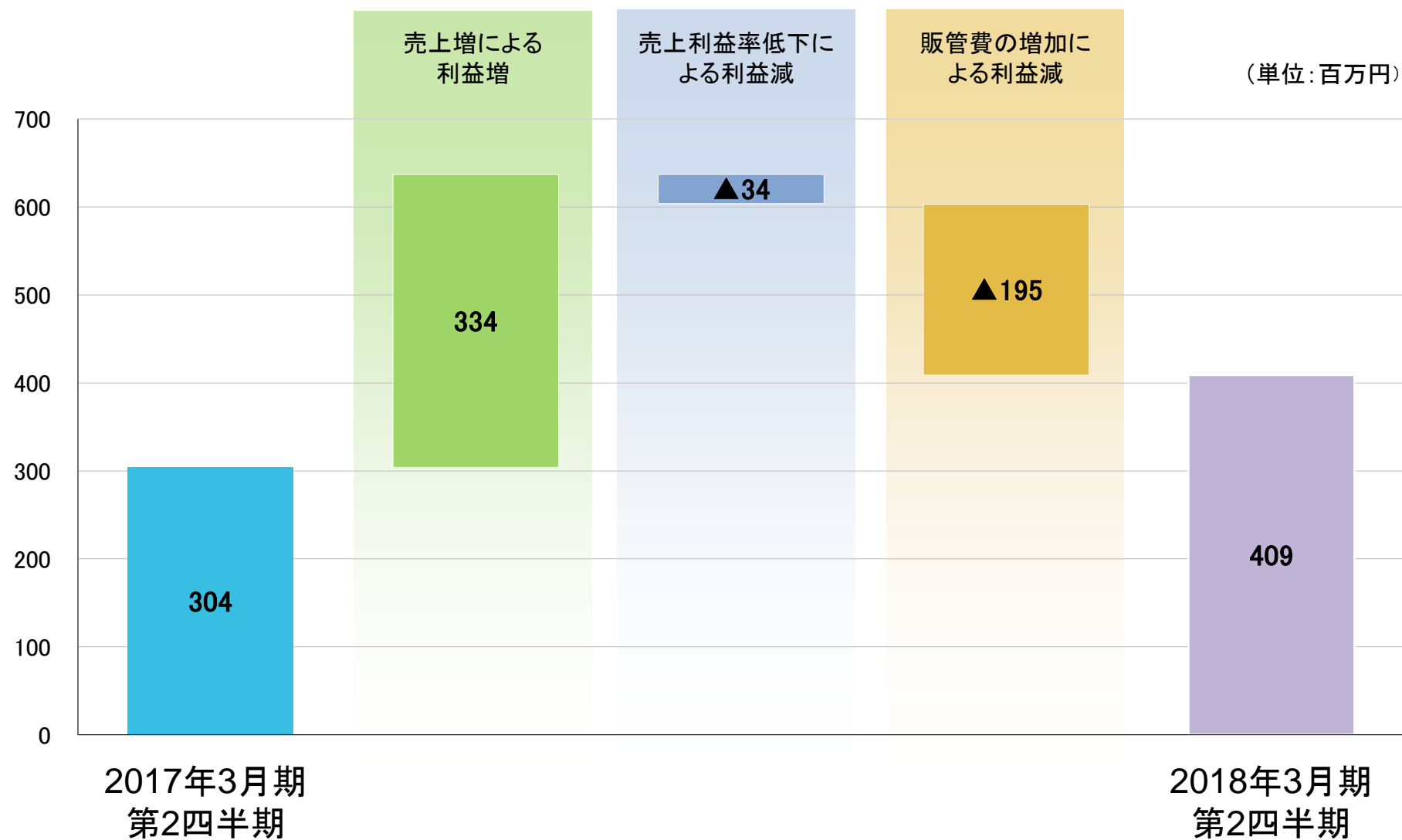
(単位:百万円、%)

(受注高)	実績						コメント
	2017年3月期第2四半期			2018年3月期第2四半期			
	金額	構成比	前期比増減率	金額	構成比	前期比増減率	
日本	5,559	66.4	9.5	6,193	58.0	11.4	<ul style="list-style-type: none"> 国内製造業の設備投資は回復傾向 海外向けの大型案件が寄与
東アジア	2,030	24.2	▲9.1	3,588	33.6	76.7	<ul style="list-style-type: none"> 中国における自動車、電子部品関連の需要が堅調
東南アジア	534	6.4	▲42.5	746	7.0	39.7	<ul style="list-style-type: none"> フィリピン、ベトナムの需要は好調 タイ、インドネシアも緩やかに回復
北中米	254	3.0	18.4	149	1.4	▲41.3	<ul style="list-style-type: none"> メキシコの販売会社の本格稼働は2017年後半より
合計	8,378	100.0	▲0.9	10,678	100.0	27.4	

(受注残高)	実績						コメント
	2017年3月期第2四半期			2018年3月期第2四半期			
	金額	構成比	前期比増減率	金額	構成比	前期比増減率	
日本	2,758	65.2	9.4	3,522	56.1	27.7	<ul style="list-style-type: none"> 国内製造業の設備投資は回復傾向 海外向けの大型案件が寄与
東アジア	1,034	24.5	▲16.5	2,268	36.1	119.2	<ul style="list-style-type: none"> 中国における自動車、電子部品関連の需要が堅調
東南アジア	351	8.3	▲6.8	455	7.2	29.6	<ul style="list-style-type: none"> フィリピン、ベトナムの需要は好調 タイ、インドネシアも緩やかに回復
北中米	83	2.0	▲29.8	34	0.5	▲58.6	<ul style="list-style-type: none"> メキシコの販売会社の本格稼働は2017年後半より
合計	4,227	100.0	▲0.7	6,280	100.0	48.5	

2. 2018年3月期第2四半期決算実績

④営業利益増減要因(連結)



2. 2018年3月期第2四半期決算実績

⑤貸借対照表(B/S)(連結)

(単位:百万円)

	2017年3月期	2018年3月期 第2四半期	増減額	コメント
流動資産	12,433	13,478	1,044	
現金及び預金	4,217	3,920	▲296	
受取手形及び売掛金	5,369	6,284	915	■ 主に売上高増加によるもの
たな卸資産	2,504	2,856	352	■ 主に受注残仕掛品の増加によるもの
固定資産	5,552	5,572	19	
有形固定資産	4,417	4,414	▲3	
無形固定資産	367	358	▲8	
投資その他の資産	767	799	31	
資産合計	17,986	19,051	1,064	
	2017年3月期	2018年3月期 第2四半期	増減額	コメント
負債合計	10,309	11,247	938	■ 仕入債務、短期借入金の増加
(有利子負債残高)	5,057	5,446	388	■ 運転資金増加への対応によるもの
純資産合計	7,677	7,803	125	
負債純資産合計	17,986	19,051	1,064	

2. 2018年3月期第2四半期決算実績

⑥キャッシュフロー計算書(連結)

(単位:百万円)

	2017年3月期 第2四半期	2018年3月期 第2四半期	増減額	コメント
営業活動によるキャッシュ・フロー	494	▲455	▲950	<ul style="list-style-type: none"> ■ 売上債権の増減額(▲は増加) 568→▲778 ■ たな卸資産の増減額(▲は増加) ▲171→▲371 ■ 仕入債務の増減額(▲は減少) 220→401 ■ 法人税等の支払額 ▲262→▲166
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲219	▲183	36	<ul style="list-style-type: none"> ■ 有形固定資産の取得による支出 ▲159→▲158 ■ 工場移転費用の支払額 ▲33→ -
財務活動によるキャッシュ・フロー	188	358	170	<ul style="list-style-type: none"> ■ 短期借入金の増減額(▲は減少) 80→240 ■ 長期借入金の増減額(▲は減少) 387→165 ■ 社債の償還による支出 ▲220→ -
現金及び現金同等物に係る 換算差額	▲160	▲16	143	
現金及び現金同等物の増減額	303	▲296	▲600	
現金及び現金同等物の期首残高	3,958	4,213	254	
現金及び現金同等物の期末残高	4,261	3,916	▲345	

3. 2018年3月期業績予想

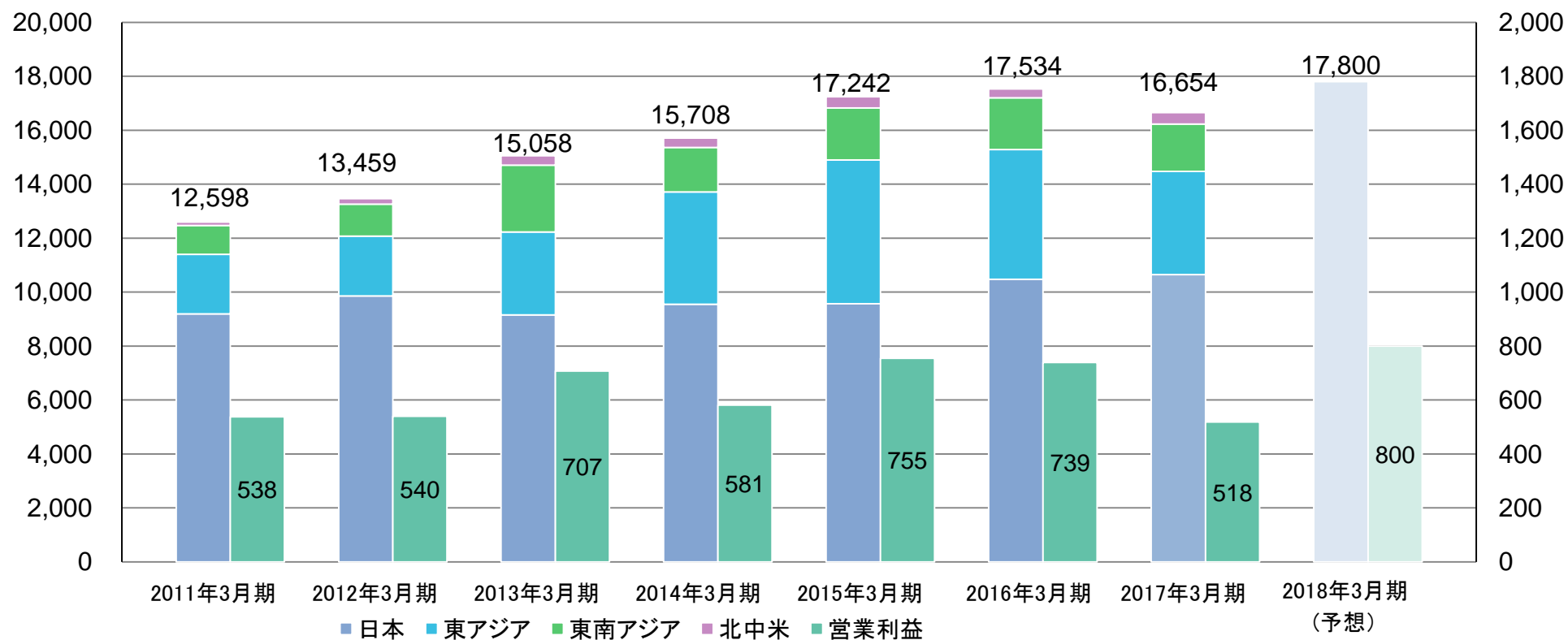
①連結業績推移

2018年
3月期
予想

連結売上高
17,800百万円
(前期比 +6.9%)

営業利益
800百万円
(前期比 +54.4%)

- 日本、東アジアの自動車、電子部品関連は引き続き堅調に推移
- フィリピン、ベトナムは好調を維持。インドネシア、タイは、総じて緩やかな回復傾向。北中米は体制の再構築を目指す
- 運賃等の増加および海外における人件費の増加はあるものの、売上高増加に伴う売上総利益の増加により、営業増益を見込む



3. 2018年3月期業績予想

②損益計算書(P/L)予想(連結)

(単位:百万円、%)

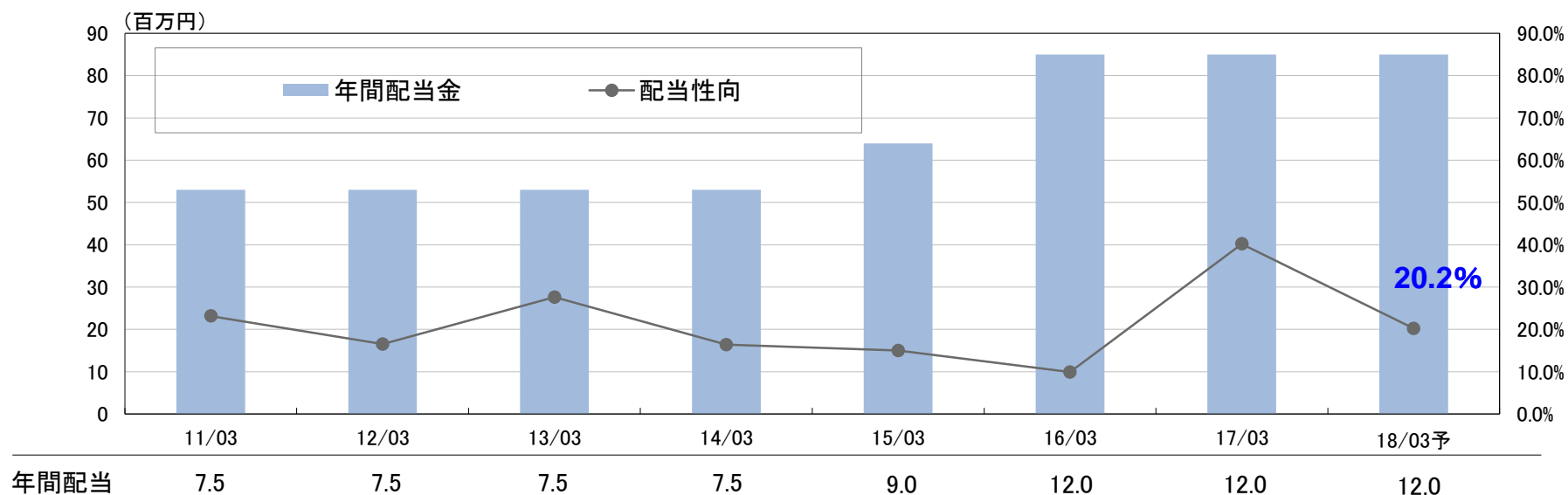
	2017年3月期			2018年3月期(通期)(予想)			コメント
	金額	構成比	増減率	金額	構成比	増減率	
売上高	16,654	100.0	▲5.0	17,800	100.0	6.9	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日本、東アジアの自動車、電子部品関連は堅調 ■ 東南アジアも総じて緩やかに回復
売上総利益	4,888	29.4	▲10.1	5,228	29.4	7.0	<ul style="list-style-type: none"> ■ 売上高増加に伴い売上総利益増加
販売費及び一般管理費	4,370	26.2	▲7.0	4,428	24.9	1.3	<ul style="list-style-type: none"> ■ 売上高増加に伴う運賃、梱包費の増加 ■ 海外における人件費の増加
営業利益	518	3.1	▲29.9	800	4.5	54.4	
経常利益	445	2.7	▲37.0	700	3.9	57.1	
(親会社)当期純利益	211	1.3	▲73.2	420	2.4	98.8	
減価償却費	283	—	31.3	300	-	5.8	
設備投資額	471	—	▲55.3	380	-	▲19.4	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日本、東南アジアにおける生産設備の更新等を見込む

4.配当政策

配当性向推移

配当方針

当社は従来の安定的な配当維持に加え、業績に連動した株主の皆様への還元を経営の重要政策のひとつとして位置づけております。また、中長期的には安定した事業成長を図り株主価値を持続的に向上させるため、業績の進展状況等を勘案し、新規事業開発や戦略投資等に内部留保資金を投下してまいります



株主優待

基準日	保有株式数	優待内容
3月31日	100株以上	QUOカード 500円相当分(追加導入)
	500株以上1,000株未満	1,000円相当の優待品、社会貢献活動団体への寄付
	1,000株以上	1,500円相当の優待品、社会貢献活動団体への寄付
9月30日	100株以上	QUOカード 500円相当分(追加導入)



Ⅲ. 経営戦略

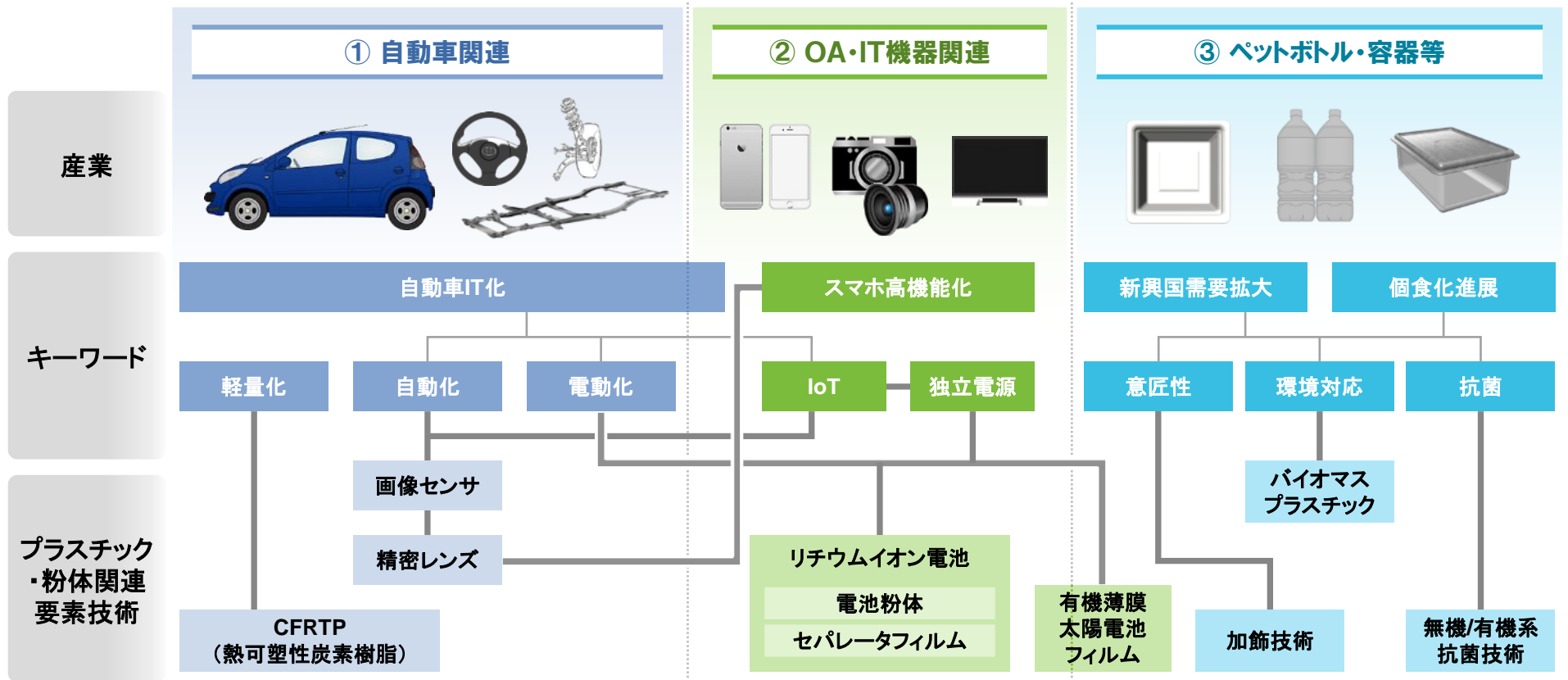


1. 事業環境

(1) プラスチック産業の動向

- 自動車関連・IT機器関連中心の技術革新・市場拡大に伴う、プラスチック部品・粉体の高品質化・高機能化への対応
- 周辺機器においては成形機器・素材の技術革新と連動した高機能性に加え省エネ、低コストが要求される
- 新たな要素技術への対応については、既存技術・製品にとらわれない上流～下流までを踏まえたシステム構築が必須

各産業の技術革新・市場拡大と対応するプラスチック・粉体の要素技術



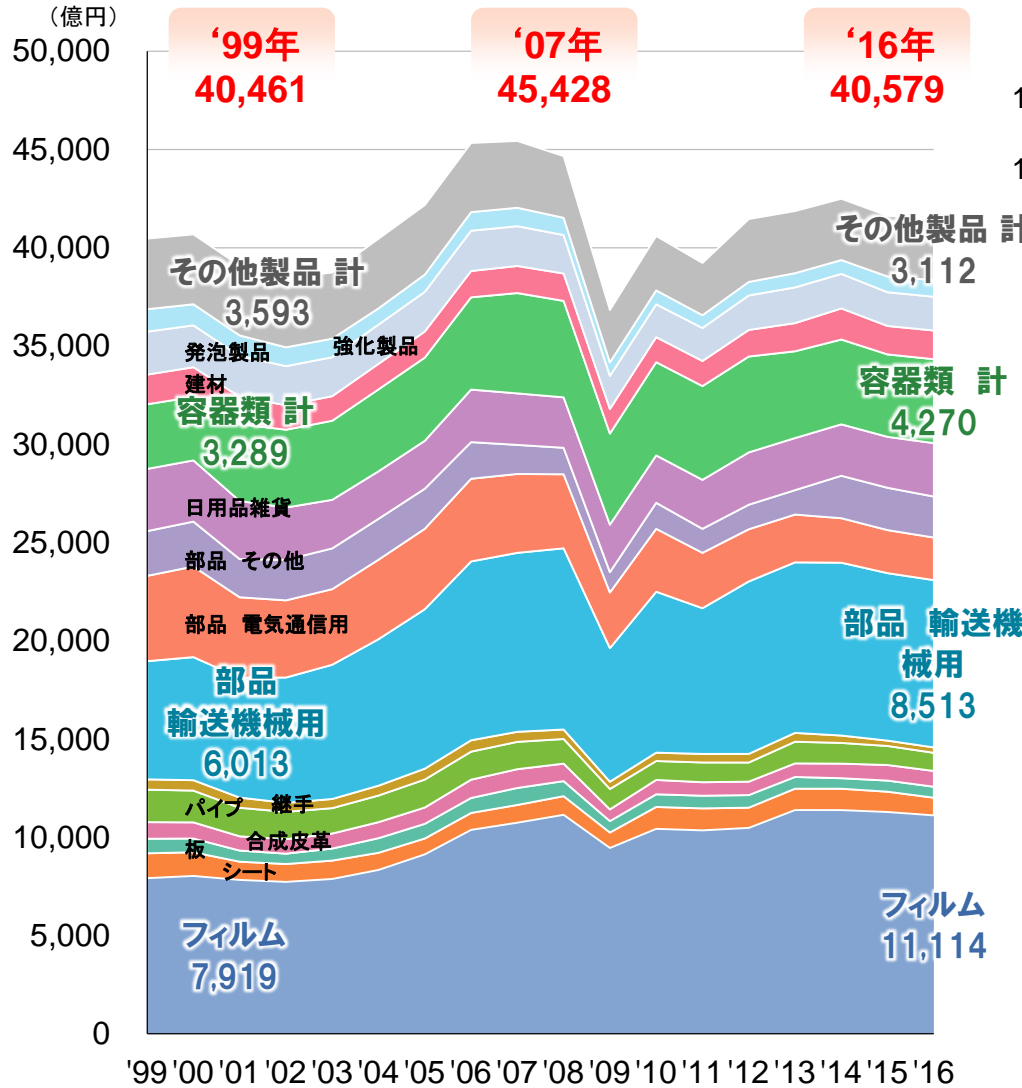
既存の技術や製品にとらわれない新しい新技術への対応が課題

素材・成形機・周辺機器各メーカー協働による上流～下流までを踏まえたシステム提案の必要性

1. 事業環境

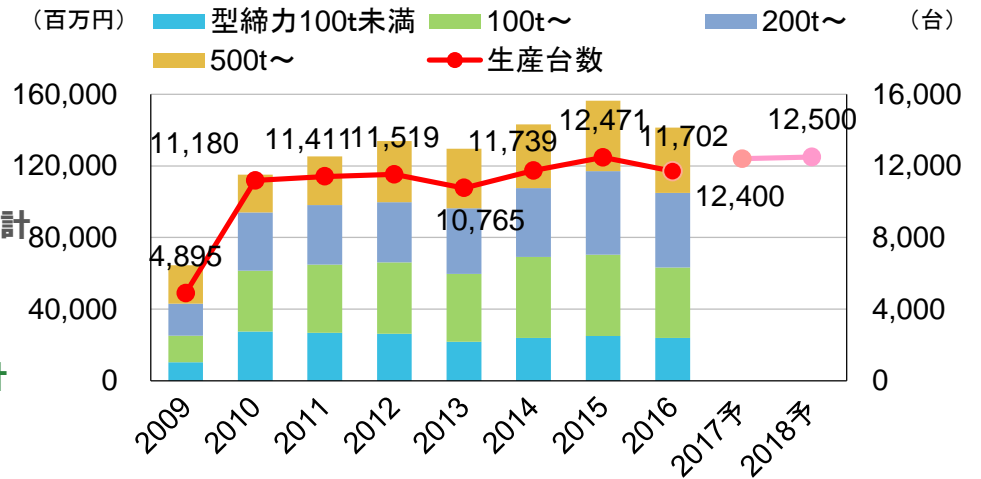
(2) プラスチック製品・成形機の生産動向

1999年～2016年 国内プラスチック製品販売実績



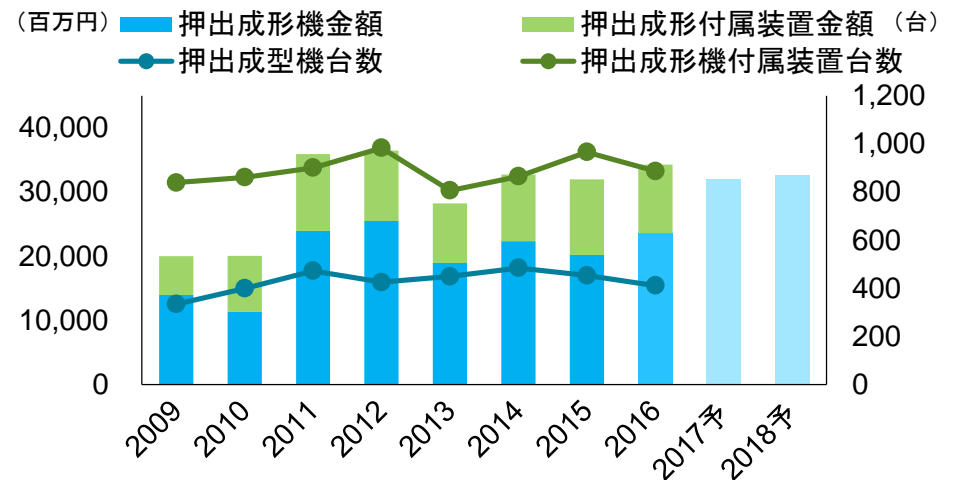
出所: 日本プラスチック工業連盟資料

射出成形機生産金額・台数推移



出所: 経済産業省 機械統計・生産動態統計(実績) 日本産業機械工業会(予測)
注)2016年迄実績については生産台数実績、2017年以降は出荷台数予測

押出成形機生産金額・台数推移



出所: 経済産業省 機械統計・生産動態統計(実績) 日本産業機械工業会(予測)
注)2016年迄実績については生産金額実績、2017年以降は需要金額予測

1. 事業環境

(3) 各エリア プラスチック・粉体関連機器需要動向

- 東アジアはIT関連を中心に需要に一服感はあるものの、日本国内における関連需要は堅調
- 中国の政策に基づく自動車関連需要に復調の兆し。北中米自動車関連への需要は継続を見込む

東アジア

- 台湾・韓国でのスマホIT関連需要が一服するも中国メーカーによる設備投資が拡大
- 中国の景気減退による影響が広く波及しているものの、自動車減税の効果による設備投資に再開の動き
- 中国政府国家施策としてのEV生産増加に向けリチウムイオン電池増産の動き

日本

- 一部で今後の投資に懸念はあるものの、日本企業全般として業績・設備投資は堅調
- 輸送機器メーカーにおいては、新製品開発も継続的に堅調
- IoT設備投資に関連する画像センサーなどへの設備投資の動きに注目

東南アジア

- インドネシアでは停滞していた自動車販売台数が回復基調
- タイは、国王の崩御により先行きは不透明ではあるが、自動車販売は回復の兆し
- ベトナム、フィリピンは依然として、高い製造業の成長率を維持

北中米

- 北中米における自動車販売は堅調。米国政権交代によるNAFTA見直し可能性の見極めの必要はあるものの、メキシコにおける自動車生産と関連需要の拡大は当面継続を見込む

2. 中期経営計画概要

- 中期経営戦略に対応、グループ各社の自主性を高め市場対応力を高めるとともに、グループでの協働を進め、企業価値・株主価値の向上を図る

中期経営戦略

1 新規市場への販売と既存市場でのシェアUPによる売上拡大

- 中国での新エネルギー車の拡大等、政府の国策により活性化する市場への対応
- 東南アジアでの生産拡大とQ.C.D向上
- 北中米市場への販売拡大
- サービス体制の強化によるCSの向上

2 マーケットニーズへの対応

- 樹脂、成形機メーカーとの交流による新素材への対応
- 進化する自動車用部品及びIT関連機器市場への対応
- 環境負荷低減、省エネ対応製品の開発
- 顧客の生産性向上に貢献する製品の開発と販売活動
- 業界、地域で異なるニーズに対応し、特徴を生かした製品の開発と販売

3 経営基盤の強化

- 人材のレベルUPによる企業力の向上
- 収益力向上によりROE8%以上の確保と総還元性向を安定して25%以上を確保する
- コンプライアンス意識の徹底による健全な企業活動
- 社会変化に対応したコーポレートガバナンスの実現

中期経営計画概要

1 所在地セグメント戦略

- 日本・東アジア・東南アジア・北中米の4拠点においてターゲット業界・重点販売製品・重点施策を策定

2 生産戦略

- 品質・信頼性向上
- 在庫管理強化
- コストダウン活動徹底

3 製品開発戦略

- 環境、省エネ適応型新製品の開発
- 市場ニーズに対応した高付加価値製品の開発

4 販売戦略

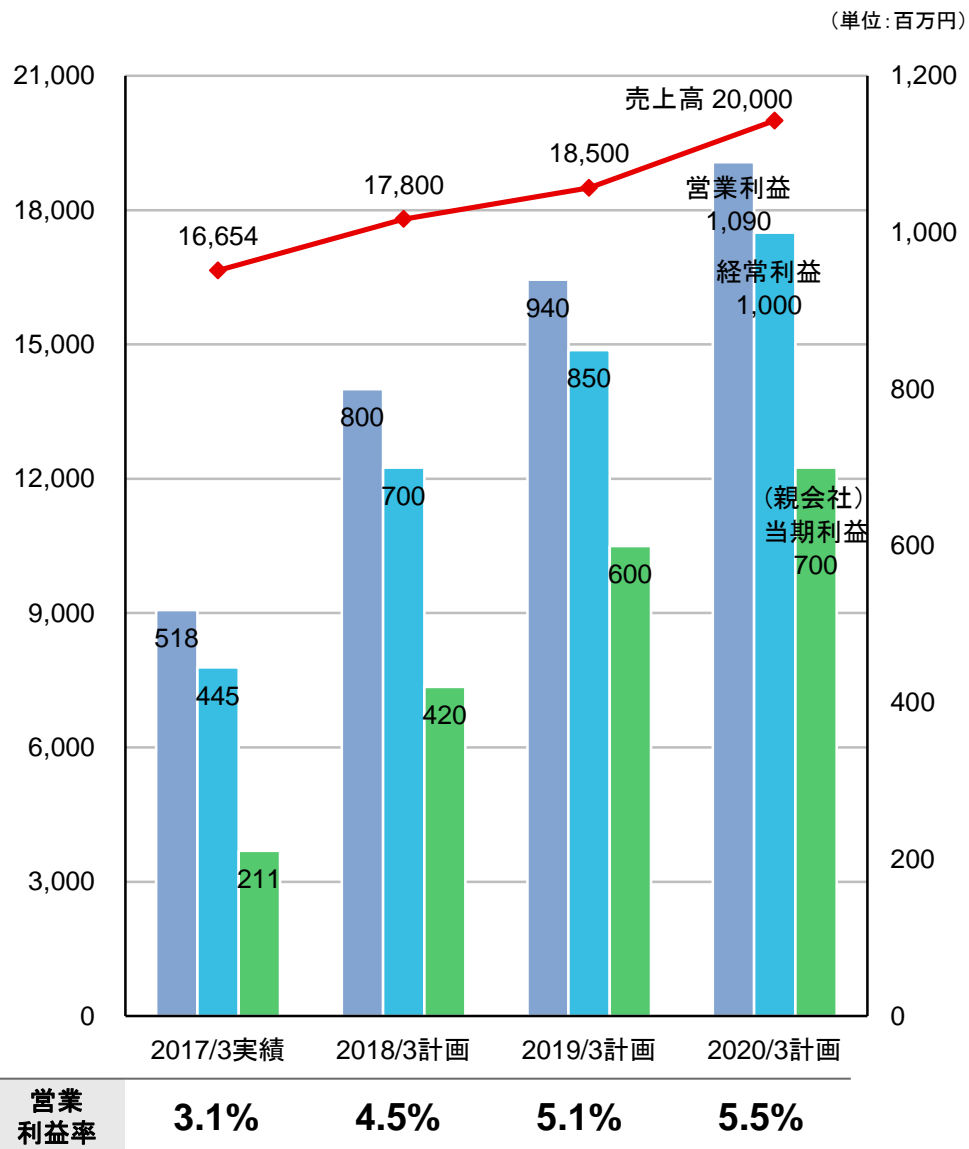
- 新製品投入による受注拡大
- 新規市場マーケティング／市場開拓展開
- 市場およびユーザーニーズへの対応
- ターゲットの絞込み

5 組織・人事戦略

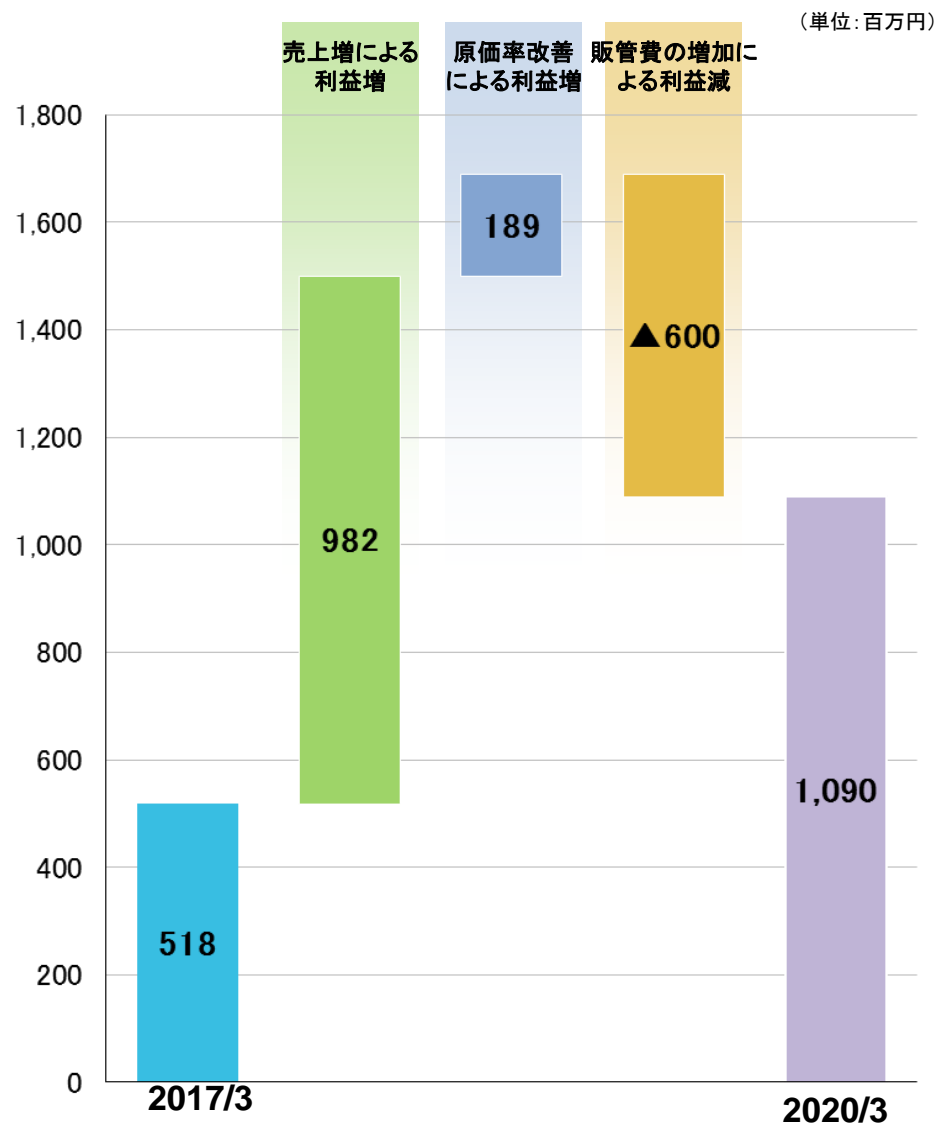
- 組織構造の構築／人材育成／CSR経営強化

3. 中期経営計画 取組状況

売上高、利益目標



営業利益増減要因

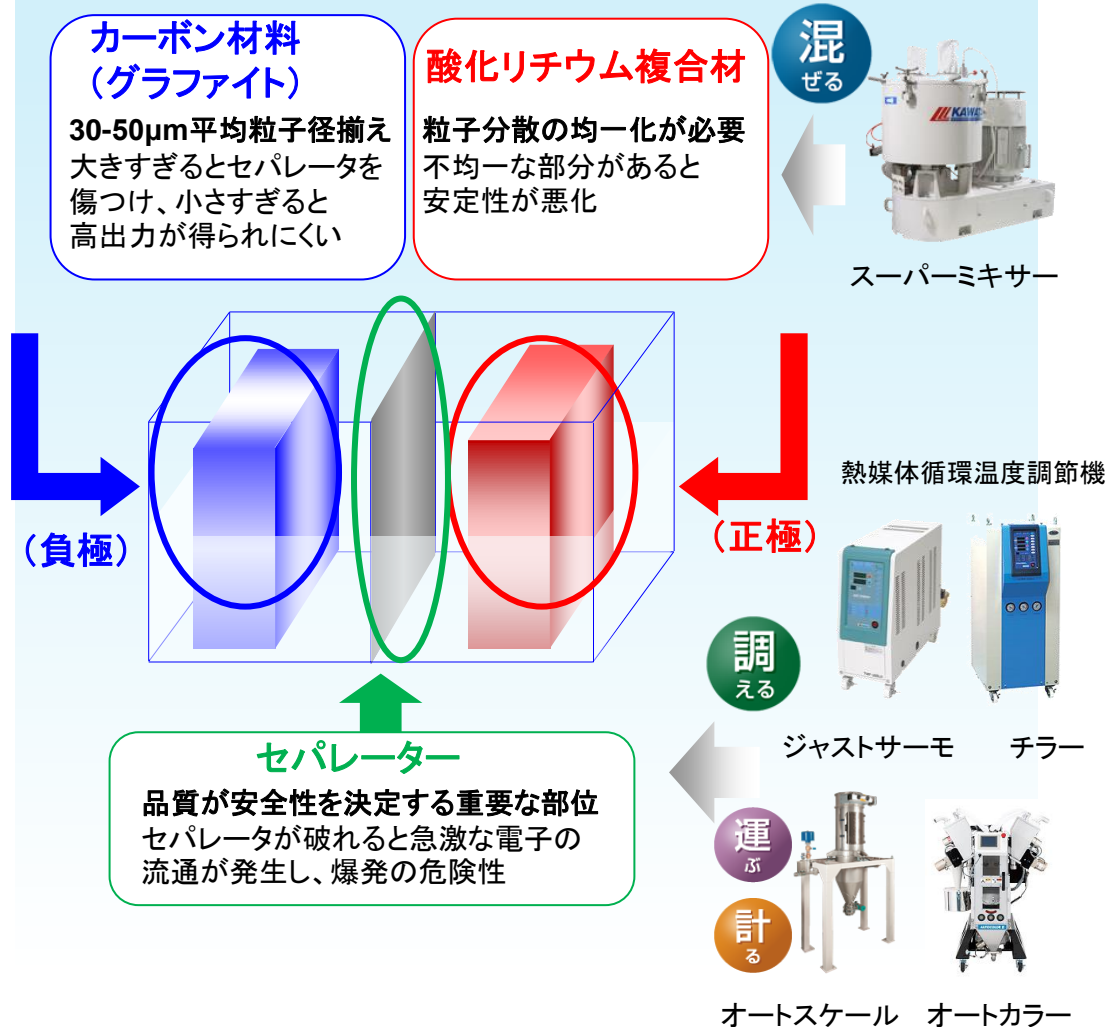


4. 経営戦略トピックス

(1) 生産戦略 ①EV/リチウムイオン電池市場への対応

- 安全なリチウムイオン電池の製造には高度な粉体混合技術/高品質フィルム製造技術が不可欠
- 中国をはじめ世界各国でのリチウムイオン電池需要急拡大に対応し、スーパーミキサーおよびセパレーターフィルム向け熱媒体循環温度調節機の需要が急増、日本及び中国の各製造拠点にて対応

リチウムイオン電池の構造と生産に必要な要素技術



中国国内リチウムイオン電池部材市場対応

- 環境対策としての**新エネルギー車** (PHV、EV車)の市場拡大が中国政府の国家政策として推進
- 今後ガソリン車の禁止の導入時期を検討等一層の踏み込み



中国新エネルギー車販売台数目標

現在(2016年)

2025年目標

50万台

700万台

リチウムイオン電池の需要拡大への生産対応

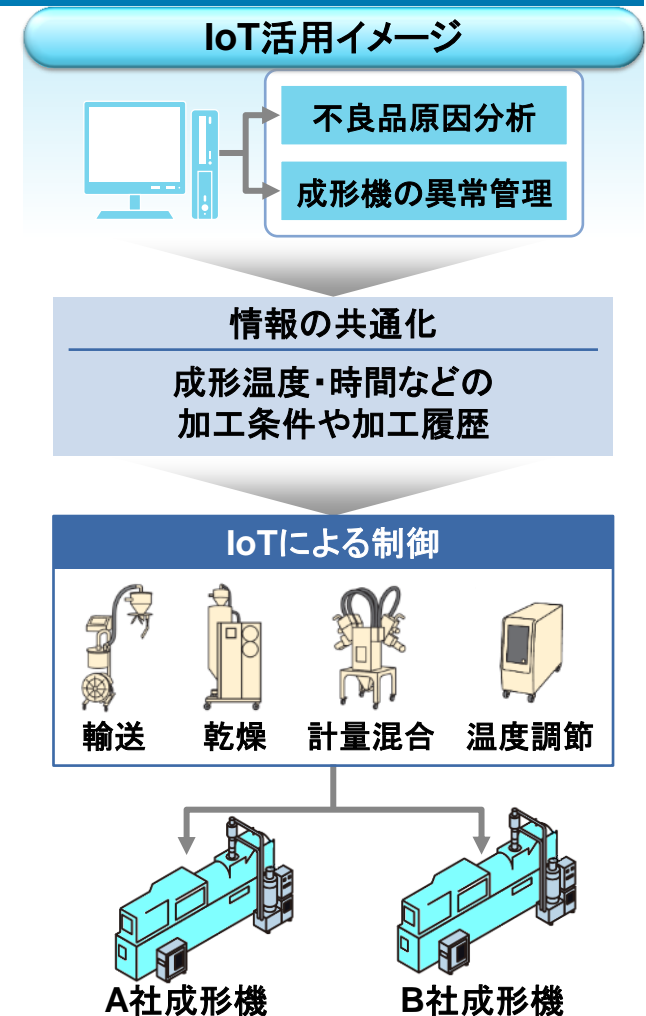
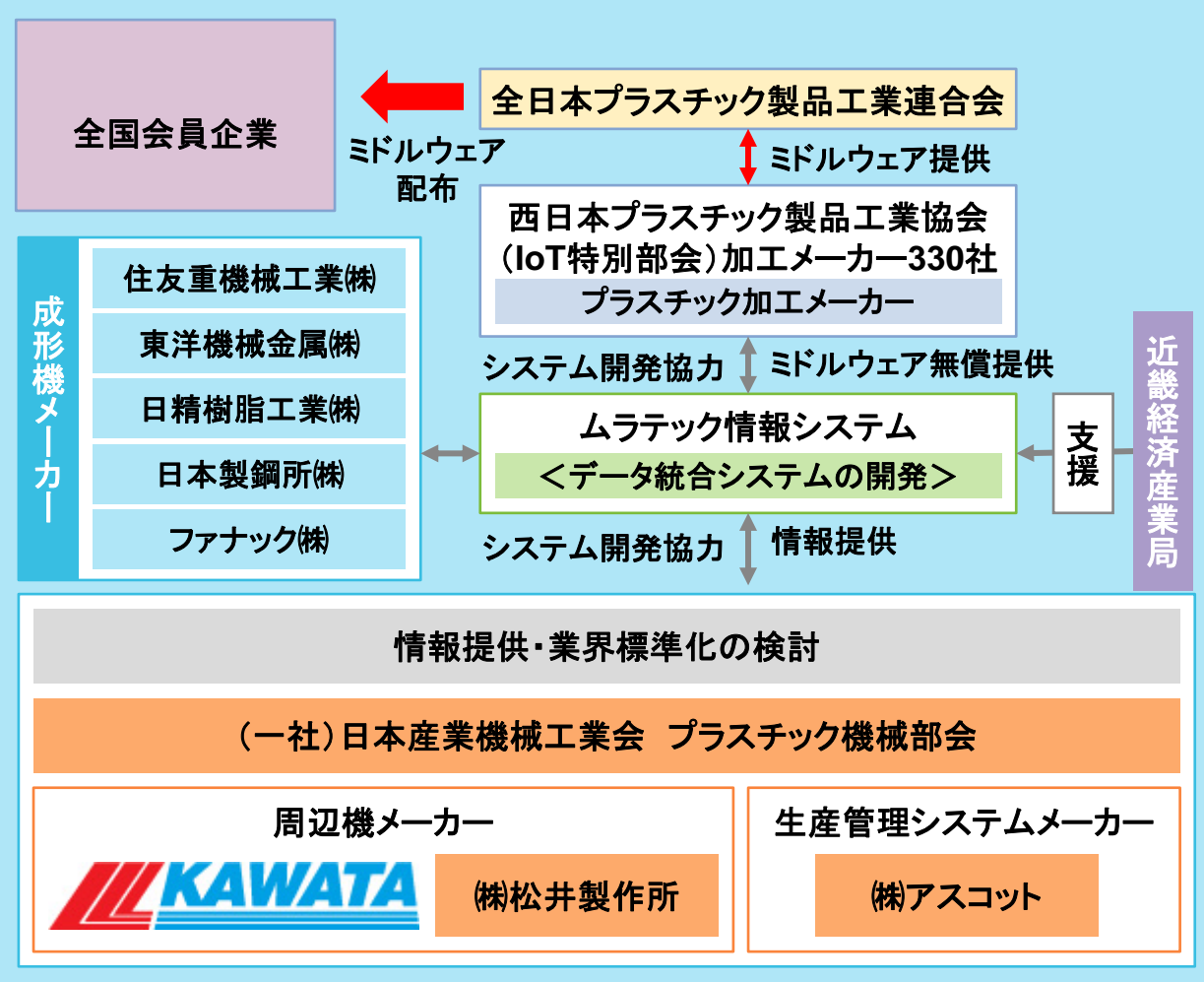
- 世界の中でNo1シェアの中国リチウムイオン電池部材市場に対し、**スーパーミキサー**を始めとする粉体用機器の製造ラインを充実、拡販を目指す
- 2017年度Lib向けスーパーミキサー販売台数(9月まで)
:前年度比200%超
- 2017年度中国粉体関連事業(含むリチウムイオン電池)受注高
:前年比300%の見込み
- セパレーターフィルム製造用の熱媒体循環温度調節機は国内工場から中国への輸出で対応

4. 経営戦略トピックス

(1) 生産戦略 ②IoT生産への取り組み

- 近畿経済産業局と西日本プラスチック製品工業協会の取組みが発展。IoT用ミドルウェアについては、今後全日本プラスチック製品工業連合会と連携、業界を挙げたIoTの普及を推進
- 2017年7月成形機データの一元化システム「ミドルウェア」が完成、今後の普及に向け前進

射出成形機用システム導入におけるIoT導入



(出所) 近畿経済産業局のプレスリリースをもとに当社作成

4. 経営戦略トピックス

(2) 製品開発 ①新素材・新技術へのアプローチ

- 各業界のニーズに対応し、最適な用途に基づき、最適な製品を提供

自動車関連

- 精確な質量計測と乾燥精度の要求と省エネ対応

質量計量混合機
ACA-Zシリーズ



- 材料使い切りモードでロス低減
- 計量データを保持

脱湿乾燥機
DFAシリーズ



- 豊富なラインナップ
- 汎用性No1ながらも特殊仕様にも対応

脱湿乾燥機
DRGシリーズ



- 省エネ、省スペースを追求した脱湿乾燥機

高精度レンズ(スマホ・車載・画像センサー)

- IT・OA関連等高い乾燥レベルが必要なラインへの提供

熱媒体温度調節機
(金型温度調節機)
TWF-HHDNaシリーズ



- 水媒体での高温制御によりクリーン環境に対応

窒素乾燥機
(連続式)
DOシリーズ



- 窒素乾燥により材料の酸化劣化を防止

リチウムイオン電池

- 高精度の分量配合と混合精度への対応

粉粒体輸送計量機
オートスケール



- 粉体材料の計量・供給の自動化

高速流動混合機
SMシリーズ



- 高速流動により高い混合性能

容器・ペットボトル関連

- 大量・多品種生産への対応

DFAシリーズ
<自動節電オプション>



- 生産能力の変動に対し自動で乾燥能力を適性に制御

貯蔵サイロ



- 大能力生産に対応する原料の受け入れ装置

4. 経営戦略トピックス

(2) 製品開発 ② 新製品紹介

- 素材の高機能化、成形機の機能向上に対応し、逐次戦略商品を投入

大型レンズ車載用液晶ディスプレイ

窒素乾燥機DTシリーズ



窒素乾燥機の新シリーズ
除湿能力、処理能力をアップ

セルロースナノファイバー(CNF)

高速流動混合機
SMシリーズ



高速流動による分散技術

ロスインウエイト式
連続粉体供給装置
WS-100



高精度な定量供給技術

成形工場の生産性向上

質量計量混合機LC-50Z



究極の省スペース化
材料替え時の清掃時間が大幅に短縮

光学用製品、医療用製品

微粉分離除去装置FSシリーズ



原料に混じっている粉を除去

微粉・異物除去フィルターXFシリーズ



高品質な製品を安定的に生産

4. 経営戦略トピックス

(3) 販売① グローバルな生産・販売・サービス体制の確立

- 世界4極体制によりグローバル最適な販売・供給・サービス体制を確立

中国



- 日系企業～ローカル企業向け製品を開発、販売シェア拡大
- 電池業界向け製品の開発・販売

日本



- 自動車部品業界向け戦略製品を投入
- 容器・ペットボトル業界シェアアップ

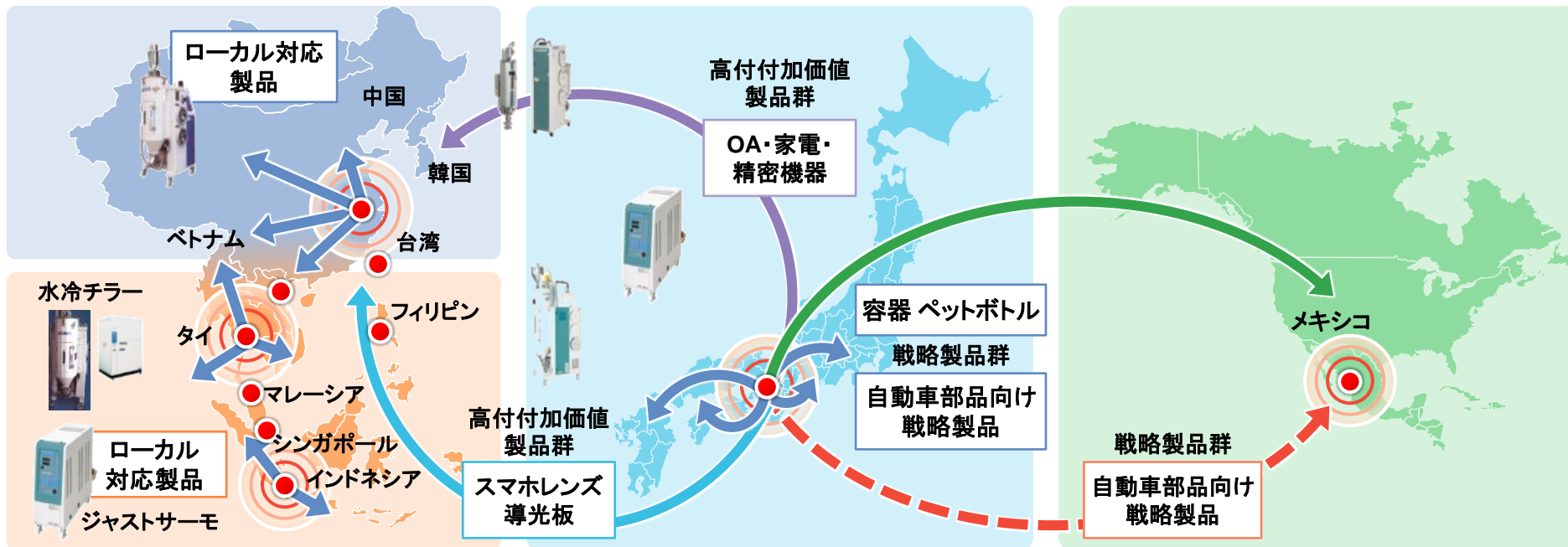
北中米



- 自動車部品業界向け戦略製品を投入
- 自動車部品製造増加に対応し、メキシコ販売法人を設立

東アジア

東南アジア



北中米

東南アジア



- タイ・インドネシア工場の製品を安定供給、販売・サービス網の整備による販売の拡大

台湾／韓国



- 日本から台湾・韓国へスマホレンズ・導光板、OA・家電・精密機器向け高付加価値製品の販売を拡大

4. 経営戦略トピックス

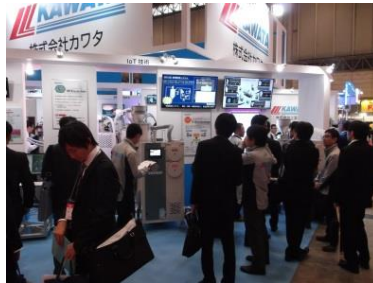
(3) 販売② IPF JAPAN2017出展

- プラスチック・ゴムの成形に関する「専門展示会の集合体」IPF JAPAN2017に出展
- カワタコンセプトは「生産性向上支援」を主題に約30種の機器を展示

IPF JAPAN2017概要

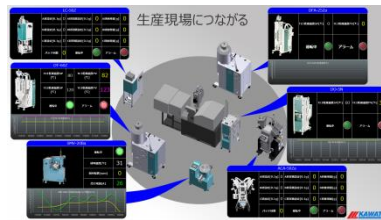


テープカット風景



カワタブース

カワタブースには会期の5日間で約2,300名の来場を記録



IoT関連展示

International Plastic Fair(国際プラスチックフェア)
会期: 2017年10月24日(火)~28日(土)
会場: 幕張メッセ
主催: 国際プラスチックフェア協議会
規模: 出展者: 778社・団体、出展小間数: 2,438小間

出展製品概要



質量計量混合機
ACA-50Zb(新製品)



脱湿乾燥機
DFB-25Z(新製品)



窒素乾燥機
DO シリーズ



熱媒体循環温度調節機
(金型温度調節機)
TWF-HHDNa シリーズ



連続粉体供給装置
(ロスインウエイト式)
WS シリーズ



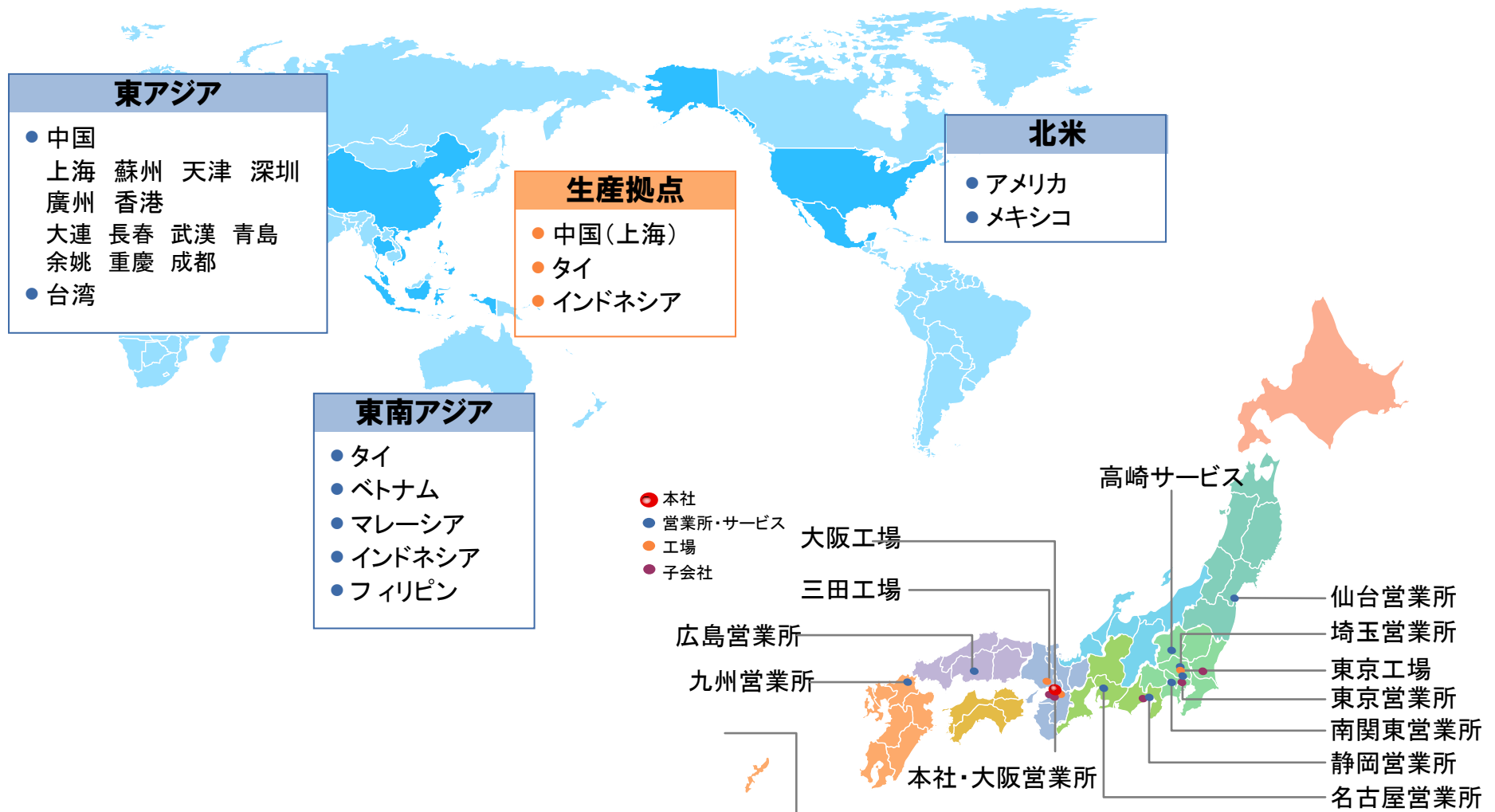
Appendix

事業ネットワーク
技術の沿革
技術力の特徴

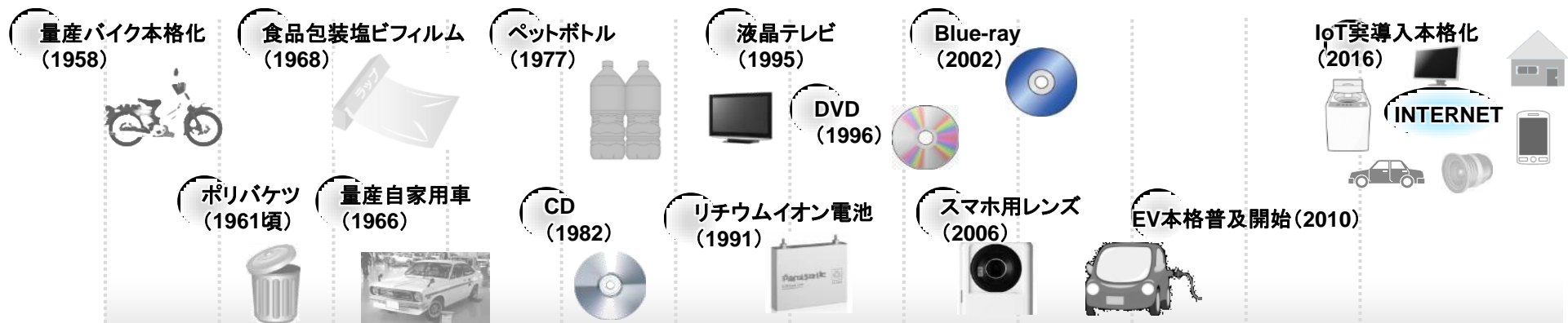


事業ネットワーク(国内・海外)

- 国内に11のカワタ営業所・サービス拠点／大阪・三田に生産工場を配置／国内子会社4社(東京1社、茨城1社、静岡1社、大阪1社)
- 東アジア・東南アジア・北アメリカに販売・製造ネットワークを展開・強化



技術の沿革



1935	1951	1962	1970	1973	1983	1987	1996	2002	2012	2013	2014	2015	2016	
創業	<p>混ぜる</p> <p>■ 高速流動混合機 (スーパーミキサー) 開発</p>	<p>乾かす</p> <p>■ 西独社と脱湿型乾燥機 (チャレンジャー) の技術提携、生産開始</p>	<p>乾かす</p> <p>■ チャレンジャー特許確立。CD成形用樹脂乾燥システム</p>	<p>乾かす</p> <p>■ 連続粉体供給装置 (ウイングスケーラー) を開発</p>	<p>乾かす</p> <p>■ 窒素乾燥機 DO 開発</p>	<p>運ぶ</p> <p>■ 吸引輸送機 (オートローダー) 実用新案</p>	<p>乾かす</p> <p>■ DVD成形対応材料輸送乾燥供給システム開発</p>	<p>乾かす</p> <p>■ 超小型真空式乾燥機 (デコ) を開発</p>	<p>計る</p> <p>■ 高効率乾式分散混合機 (ナノパージョン) を開発</p>	<p>乾かす</p> <p>■ 窒素乾燥機 DT-60Z 開発</p>	<p>計る</p> <p>■ 超省スペース計量混合機 LC-50 を開発</p>	<p>混ぜる</p>	<p>乾かす</p>	<p>乾かす</p>
	<p>■ 川田製作所法人改組</p> <p>■ 押出成形機を開発</p>	<p>調える</p> <p>■ サーモテック金型温調機生産開始</p>	<p>運ぶ</p>	<p>計る</p>	<p>混ぜる</p>	<p>計る</p>	<p>乾かす</p>	<p>乾かす</p>	<p>乾かす</p>	<p>乾かす</p>	<p>乾かす</p>	<p>乾かす</p>	<p>乾かす</p>	<p>乾かす</p>

技術力の特徴・業界シェア・順位

- 国内プラスチック製造装置合理化システムにおける技術の優位性・特許取得は主要製品におけるトップシェア確保を可能に

液晶画面関連(フィルム、シート)等

- 液晶画面の大型化、多機能化に伴い、高品質光学フィルム需要の伸長下、**クリーン技術**を駆使
- 材料の貯蔵から輸送、除粉、乾燥までトータルな成形支援システムを提供

保有特許9件/
出願中17件



レンズ関連(携帯電話関連レンズ等)

- **窒素乾燥技術**を中心に、酸化防止や安定した水分率管理が**できる乾燥システム**および高精度な金型温度調節機を提供
- 不良率の低減と高品質製品の生産に貢献

保有関連特許10件
出願中6件



ペットボトル関連(ペットボトル等)

- 豊富な乾燥ノウハウと革新的な発想に基づき、**樹脂の加水分解・酸化劣化を抑制**
- 必要最小限のエネルギーで効率的な乾燥を実現

特許出願中3件



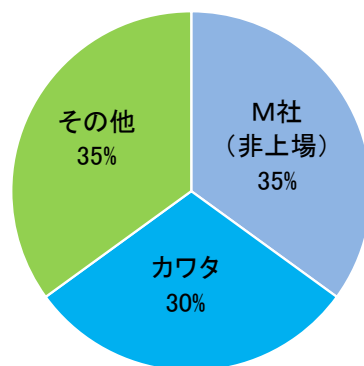
プリンター関連(カラートナー等)

- 半世紀以上も前に生産を開始したヒート商品スーパーミキサーをはじめ、当社の**粉体貯蔵、輸送、高精度計量、高分散混合技術**はお客様の粉体関連事業をサポート

保有関連特許7件
出願中5件



当社コアビジネス国内業界シェア
(売上合計300億円)



自動車関連(ハンドル・バンパー、部品等)

- ヒット商品の計量混合機オートカラーや脱湿乾燥機DFAなど、充実した**省エネ・省力化機器**をラインアップ
- 自動車関連成形業界の生産性の向上に貢献

保有特許9件
出願中17件



本日はありがとうございました

粉体・粒体加工技術をベースに 新素材開発の未来を切り開く

IRに関するお問い合わせ先

株式会社カワタ 総務人事部

電話: 06-6531-8211

e-mail: ir6292@kawata.cc

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。